

主題：聖書の核心

メッセージ 1

創世記における核心

聖書：コロサイ 2:2. エペソ 1:17. 3:3-5, 8-9. 5:32. I テモテ 1:3-4

- I. キリストは神の奥義であり（コロサイ2:2）、召会はキリストの奥義であり（エペソ3:3-5）、キリストと召会は偉大な奥義です（5:32. 参照、1:17）。神の永遠のエコノミー（I テモテ1:3-4. エペソ3:8-9）の内容としてのキリストと召会は、聖書の核心です。
- II. 創世記において、キリストは以下の項目です：
- A. キリストは神のかたちです—— 1:26-27. コロサイ 1:15. II コリント 4:4。
- B. キリストはわたしたちの内側の命であり、命の木によって表徴されます——創 2:9. ヨハネ 14:6. 10:10. I コリント 15:45 後半. コロサイ 3:4. ローマ 8:6. ヨハネ 6:57. II コリント 3:6。
- C. 女の種としてのキリストが指しているのは、ご自身を人性の中へと分与することを通して、キリストが肉体と成り、すなわち、神全体が完全な人となって、サタンを滅ぼし、キリストにある信者たちを罪と死から救うことです——創 3:15. イザヤ 7:14. マタイ 1:16, 20-21, 23. ガラテヤ 4:4. ヨハネ 1:1, 14. 8:24, 28, 58. ヘブル 2:14. I コリント 15:53-57：
1. わたしたちの法理的贖いのために「神は御子を遣わし、一人の女から生まれさせ」ました。神はわたしたちの有機的な救いのために「御子の霊を遣わされ」、ご自身の御子を変貌させ、わたしたちを「息子化」します——ガラテヤ 4:4, 6. 3:13-14。
 2. 命の与える霊としての復活したキリストは、変貌した女の子孫であり、わたしたちの中へと分与されて、わたしたちの中で蛇の頭を打ち砕き、わたしたちを女の団体の種、勝利を得た男の子とし、太古の蛇の上に神の裁きを遂行し、神の時代の器となって時代を転換し、神の王国の実現をもたらします——啓 12:5。
 3. 勝利者としての主は男の子のかしら、中心、実際、命、性質であり（3:21）、男の子は従う勝利者として主のからだです：
 - a. 男の子となる道は、わたしたちが日ごとに内なる人の中へと増強されて、力づけられてキリストの豊富を経験し、神の武具としてのすべてを含むキリストを身に着けることを通して強くなり、すべての祈りによって御言葉を受け取ることです——エペソ 3:16. 6:10-20。
 - b. わたしたちが小羊の血を用い、わたしたちの証しの言葉を語り出し、死に至るまでわたしたちの魂の命を愛さないとき、命の種としてのキリストの自然の命の力は、わたしたちの中で蛇の頭を打ち砕きます。——ローマ 8:2。

啓 12:10-11. 使徒 1:8。

D. アブラハムの種としてのキリストは、地のすべての家族に対する祝福です。命の与える霊としてのアブラハムの唯一の種は、命を与える霊と成りました——創 12:2-3, 7. 17:7-8. ガラテヤ 3:14, 16, 29. I コリント 15:45 後半. ヨハネ 12:24 :

1. 命を与える霊としての復活したキリストは、変貌したアブラハムの子孫、すなわち、アブラハムの種であり、わたしたちの中へと分与されてわたしたちをアブラハムの子たち、アブラハムの団体の種とします。彼らはアブラハムの祝福としての究極的に完成されたその霊を受け入れ、受け継ぐことができる者たちです——ガラテヤ 3:7, 14. 4:28 :

a. 神がアブラハムに約束した祝福の物質の面は、良き地でした (創 12:7. 13:15. 17:8)。それはすべてを含む命を与える霊としてのすべてを含むキリストの予表です (コロサイ 1:12. I コリント 15:45 後半. II コリント 3:17)。

b. 命を与える霊としてのキリストはアブラハムの祝福 (ガラテヤ 3:14)、アブラハムの種とアブラハムに約束された良き地の両方の実際です。今日のわたしたちの祝福は神ご自身です。神はキリストの中で具体化され、園霊として実際化され、わたしたちの中へと分与されて、わたしたちの享受となります。

2. わたしたちはキリストをすべてを含む命を与える霊として継続的に受け入れ、アブラハムの種としての彼をわたしたちの中で成長させ、信仰を聞くことによって、アブラハムに約束された地としての彼を享受することができます——2, 5 節. II コリント 4:13 :

a. わたしたちはその霊を受け入れるために、その霊が諸召会に聞くことを聞く耳を持つ必要があります (啓 2:7. 参照、ヘブル 5:11-14)。わたしたちの内側の各部分の中へと分与されることのできるその霊の度量は、わたしたちの聞くことの度量にかかっています (マルコ 4:23-25. マタイ 13:14-16. 5:3, 8. ルカ 10:38-42)。

b. わたしたちは奴隷・救い主と一となる必要があります。それは彼を極みまで愛し、彼をわたしたちの絶対的な献身とし、彼に道を与えてわたしたちの耳を開いて彼の神聖な指示、彼の新鮮なメッセージを聞くことによります。彼の新鮮なメッセージは神聖な霊をわたしたちの中へと分与して、わたしたちが霊の中で、彼の御子の福音において神に仕えるようにさせます——出 21:1-6. イザヤ 50:4-5. ヨハネ 6:63. II コリント 3:6. ローマ 1:9。

III. 創世記において、召会の構成要素は、アダム、アベル、エノス、エノク、ノア、アブラハム、イサク、ヨセフを伴うヤコブによって予表されています :

A. 「エホバ・神は、アダムとその妻のために皮の衣を作り、彼らに着せられた」——創 3:21 :

1. 皮の衣はおそらく、小羊の皮だったでしょう。小羊は、罪深いアダムとエバのための身代わりとして犠牲にされ、罪の赦しのために血が流されました (ヘブル 9:22)。神が小羊を殺すことは、神の小羊であるキリストの身代わりの死を予表しました。彼の尊い血は流されて贖いを完成し、それに基づいて神は信じる罪人を義とされます (ヨハネ 1:29. 啓 13:8 後半. I ペテロ 1:18-20. 3:18

前半、エペソ 1:7、ローマ 3:24)。

2. 神が皮の衣をアダムと彼の妻に着せることは、神が彼らの信仰を通して彼らを義としたことを意味します (28 節)。衣は、神の義としてのキリストがわたしたちを覆って、わたしたちが神によって義とされることの予表です (エゼキエル 18:4, 20、ローマ 6:23、エレミヤ 23:6、I コリント 1:30)。
 3. 真の身代わりは、結合に基づいています。神によって小羊の衣を着せられた後、アダムは小羊と一になりました。こうして、罪人は身代わりと一になりました。これが結合です。
 4. 結合は身代わりの効力をもたらします。わたしたちが福音を信じる時、キリストはわたしたちの上に、わたしたちの覆う義として着せられ (参照、ルカ 15:22)、わたしたちはキリストの中に入れられて (I コリント 1:30)、わたしたちをキリストと一にします。わたしたちがキリストと一であるので、彼が十字架上で成就したものはすべて、わたしたちのものとなります (ガラテヤ 2:20)。
 5. イエス・キリストを信じることは、彼と一になり、彼との結合の中に入ることです (ヨハネ 3:16)。そのような結合の中で、キリストであるすべて、彼が持っているすべて、彼がすでに行ない、また行なうであろうすべて、彼が達成し獲得したすべては、わたしたちのものです。
- B. アベルは勝利を得た殉教者であり、ただ神の定められた御旨だけを顧みて、自分自身の生存を顧みませんでした——創 1:29、9:3、4:1-2、参照、ヘブル 10:5-10 :
1. アベルは神を知っただけでなく、神を礼拝する神の道を取りました。その道は、神の神聖な啓示にしたがってであり、自分の観念にしたがってではありませんでした。アベルの信仰は、彼の両親からの福音の言葉を聞くことから来しました。ですから、アベルが行なったことは啓示から出て来ました——11:4、ローマ 10:14, 17。
 2. 神のあらかじめ定めた贖いにしたがって、アベルは彼の羊の群れの初子を神にささげ、自分の贖いのために血を流し、神の満足のために脂肪を焼き、彼が神によって義とされるために皮の衣で覆いました——創 4:4、ヘブル 9:22, 11:4。
 3. アベルが行なったことは、新約における福音と完全に符合します。この福音がわたしたちに告げているのは、血の清めを受け入れ、自分自身を否み、自分自身をわきに置き、キリストをわたしたちのおおいとして、わたしたちがキリストの中で生き、神の義となるということです——II コリント 5:21、ピリピ 1:19-21 前半。
 4. カインは自分の労苦の実に信頼しましたが、アベルは彼のささげ物に信頼を置き、キリスト・イエスの中で誇り、肉を頼みともしませんでした——ピリピ 3:3。
 5. アベルは贖われただけでなく、神に連れ戻されて神と接触し、神と交わりました。アベルは主の御顔を顧みましたが、カインは主の面前 (御顔) から去

って、逃亡者、また放浪者となりました——創 4:14, 16 :

- a. もしわたしたちが神の面前にいないなら、内側深くに、わたしたちは放浪者であって、どこにも行く所がないという感覚を持つでしょう。わたしたちの真の住まいは神の御顔（面前）です——詩 90:1。
- b. 神の道に従って神の面前で生きる人はみな、顔を伏せたカインとは対照的に、顔を上げます——創 4:6-7 前半. 参照、詩 42:5, 11。

C. 人類歴史において、エノスは境界碑、すなわちエホバの御名を呼び求めた人の境界碑でした——創 4:26 :

1. 「エノス」という名は「もろい、死ぬべき人」を意味します。エノスは、自分が弱く、もろく、死ぬべきものであることを認識したので、自分自身に信頼しませんでした。わたしたちが人の命の空虚と人のもろさを認識するなら、自分自身に信頼しません——伝 1:2. 2:14, 17. II コリント 1:9. ピリピ 3:3。
2. 「呼ぶ」のヘブル語の言葉は、「呼び出す」、「叫び求める」、すなわち、聞こえるように叫び出すことを意味します。人々は、自分の命が空虚であり、自分のもろくて死ぬべきものであることを認識したので、自然にエホバ、永遠の方の御名を呼び求め始めました。
3. 彼らは空虚で弱かったのですが、主の御名を呼び求めることによって、豊かで強くされました。なぜなら、彼らは呼び求めた方の豊富と力の中へと入ったからです——使徒 9:14, 21. 22:16. I コリント 1:2。
4. 正常なクリスチャン生活は、わたしたちの霊を活用して主の御名を呼び求めることによって、絶えずその霊を受ける生活です——ガラテヤ 3:2, 5. ヨハネ 20:22. ローマ 10:12-13。
5. わたしたちは主の御名を呼び求めることによってその霊を呼吸するとき、吐き出し吸い込みます。わたしたちは消極的なものを吐き出し、主の積極的なものを吸い込みます——哀 3:55-56. 詩歌, 210 番。
6. キリストを生きる道は彼を呼吸することであり、彼を呼吸する道は絶えず彼を呼び求めることです——ピリピ 1:19-21 前半. ローマ 10:12-13. I テサロニケ 5:17。